



「お客様に喜ばれ、愛され、社会に貢献する」を経営理念に掲げる株式会社平原精機工業。同社は、船用ディーゼルエンジン部品をはじめとして、建設機械部品や農業機械部品に欠かせない精密部品と、販売台数20,000台を超えるベストセラーの割出盤（インデックステーブル）などを製造している。同社の情報システムでは、長年にわたって旧世代のエンドポイントセキュリティを利用してきたが、増加するサイバー攻撃のリスクに備えるために、Sophos MDR Essentials セキュリティサービスに刷新した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



株式会社 平原精機工業

本社所在地 664-0845 兵庫県伊丹市東有岡3-172

TEL:072-782-0802 FAX:072-782-5422

WEBサイト <http://www.hsk-it.co.jp/>MAIL hirai@hsk-it.co.jp

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Essentials



Sophos MDR Essentialsの導入は、
セキュリティ対策の強化に加えて、
従業員の意識改革にも貢献しています。

株式会社 平原精機工業
製造部 部長
平井 寛史 氏

1951年（昭和26年）にヤンマーディーゼル株式会社（現 ヤンマー株式会社）のサプライヤーとして創業した平原鉄工所は、1974年（昭和49年）に社名を株式会社平原精機工業に変更し、2023年（令和5年）に創業72周年を迎えた。同社の主力製品は、自動化や省力化に貢献する省力機器と、船用ディーゼルエンジンや建設機械などで使われる精密部品のギヤなどになる。同社の取引先には、国内の大手製造メーカーや商社が多く、ディーゼルエンジン製造における重要なサプライチェーンの一角を担っている。また、大手企業との取引が多い関係でセキュリティ

対策への要件も厳しく、その水準に応えるために次世代型のセキュリティ対策が強く求められていた。

ビジネスチャレンジ

「大手取引先のセキュリティ要件に応える対応が急務」

株式会社平原精機工業が過去に抱えていたセキュリティ対策の課題について、社内の情報システムを担ってきた平井部長は、次のように振り返る。

「当社では限られた情報システム担当者に

よって、基幹システムから従業員の利用する端末の整備まで、外部のITパートナーと協力して運用してきました。そのため、セキュリティ対策に関しても過去に導入したウイルス対策ソフトを使い続けていました。これまでに、マルウェアなどの感染やインシデントに及ぶ被害は受けていないのですが、この数年でお取引先から求められるセキュリティ対策への要望が高くなり、その対応が急務となっていました」。

船用ディーゼルエンジンや建設機械などの精密部品を製造し納品している同社は、大手製造メーカーのサプライチェーンの一角を担っている。国内でのサイバー攻撃やラ

ンサムウェア被害が広がる中で、こうしたサプライチェーンが狙われるケースが増えている。平井氏は「毎年、大手のお取引先からは、当社のセキュリティ対策に関するアンケートが送られてくるのですが、その中に『次世代型のウイルス対策ソフトは導入していますか?』という項目が追加されていました。ウイルス対策に次世代と旧世代があると理解していなかったため、その要件に応えるためには、何らかの対応が必要になると考えて、信頼できるITパートナーに相談しました」と検討の背景を語る。

テクノロジーソリューション

「タイムリーなITパートナーからの提案でSophos MDR Essentialsを導入」

Japan Innovation Partner of the Year Award 2018を受賞した実績のあるリコージャパン株式会社では、平井氏から次世代型ウイルス対策ソフトの相談を受けて、Sophos MDR Essentialsを提案し

た。平井氏は「リコージャパンからの提案は、とてもタイムリーでした。次世代型ウイルス対策ソフトとして、Sopos Intercept Xの性能やこれまでの実績について伺いました。エンドポイントセキュリティに加えて、Sophos MDR Essentialsによる監視体制を整えていけば、お取引先からのアンケートに応えられるセキュリティ対策を実施できると判断しました」と検討の経緯を話す。

ソフォスの提供するMDRサービスには、Sophos MDR Essentials と MDR Complete の2種類がある。Sophos MDR Essentialsは、コストパフォーマンスに優れたMDRサービスで、24時間年中無休の専門家主導による脅威監視と対応が提供され、週次と月次にレポートが送られてくる。また、すべてのソフォス ソリューションとの統合に加え、さまざまなサードパーティのセキュリティソリューションとの統合にも対応している。上位サービスにあたるSophos MDR Completeには、アクティブインシデント時の直接連絡のサポートや根本原因解析などのサービスが追加されている。

平井氏は「Sophos MDR Essentialsの

提案は、当社の事業規模にマッチした最適な提案でした。少数精鋭でシステム管理や運用を担っている情報システム部門にとっては、Sophos MDR Essentialsによる24時間の脅威の監視と対応は、大きな安心材料になります」と評価する。

ビジネスインパクト

「世界トップクラスのエンドポイント保護を多くの社員も実感」

平井氏を中心とした社内の情報システム部門では、Sophos MDR Essentialsの導入に向けて、Sopos Intercept Xの性能や業務で利用するアプリケーションの動作などを確認した。動作検証を経て、2023年2月から約170名の社員が利用するPCと社内で運用するサーバーなどに、Sopos Intercept Xがインストールされ、Sophos MDR Essentialsによる24時間の監視がスタートした。

導入後の成果について、平井氏は「多くの

社員が、次世代型のウイルス対策ソフトの性能を実感しました。例えば、休み時間に女子社員が見ていた占いのサイトなども、閲覧のリスクがあるという警告が表示されるようになりました。また、サイトそのものは有害ではないブログでも、そこに表示されるバナー広告などにフィッシング詐欺の兆候があるなど、インターネットに潜んでいる未知の脅威を知らされる機会が増えました。結果として、社員の多くがセキュリティに対する意識を向上させたと受け止めています」と話す。

さらに「Sophos MDR Essentialsを導入した、と取引先の商社に話をしたところ、その会社でもソフォスを検討している最中だと聞きました。リコージャパンからソフォスという社名を聞いたときには、どんな会社なのかインターネットで調べたのですが、大手商社なども注目するセキュリティ対策のトップベンダーだと知り、改めて選んで良かったと思っています」と平井氏は補足する。

フューチャービジョン

「今後も高い検知率と信頼性の維持に期待」

今後に向けたセキュリティ対策の強化について、平井氏は「サイバー攻撃に対する備えだけではなく、製造業として取り組まなければならないセキュリティ対策は、まだまだ多岐にわたります。リコージャパンをはじめ、当社のパートナー企業と連携して、取引先に安心してもらえる体制を整備していこうと考えています。当面は、緊急性と重要性の高い部分から取り組んでいきます」と話す。最後に平井氏は「ソフォスに対するイメージは、今回の導入を通して、非常に心強い存在へと変わりました。細かい疑問などにも迅速に対応してもらえました。また導入の段階でも、何かあればリコージャパンには、リモートやオンサイトで対応してもらえたので、今後の継続的なSophos MDR Essentials運用においても安心していきます。これからも、高い検出率を維持し続けてもらいたいと願っています」と締めくくる。

